



日本人初の海外プロ、 村田互が語る ワールドラグビー 「海外の選手が、 ジャパンを刺激する！」

むらた わたる／68年1月25日生まれ。身長173cm、体重74kg。小学の時にラグビーと出会い、専修大から東芝府中へ。96～98年の東芝の3連覇に大きく貢献し、99年12月から1年半、フランスのアピロン・バイヨンヌでレギュラーとして活躍。W杯には91年大会から3大会連続出場し、4回目の出場を狙う、攻撃的なスクラムハーフ。今季のヤマハ発動機の躍進を支えている。

村田選手はフランスでプレイされましたが、海外でプレイしようと思っただけですか？

村田 もともと海外志向はあったんですよ。きっかけは91年に行なわれた第2回W杯なんですけれど、その先発としてスコットランド戦に出まして、試合自体は負けて何もできなかったって感覚は残ったんですが、海外のクラブがかなりの評価をしてくれて、その時から、いずれ海外でやりたいなと思い始めましたね。

そして、フランスでプロになりましたが、その収穫は何でしたか？

村田 タフになったと思うんですよ。精神的にも肉体的にも。プロとして、ラグビーだけで過ごせたのが、一番の収穫だと思いますね。

現在、海外でプレイする日本人選手が増えてきていますが……。

村田 いいことだと思っています。世界を知って、日本代表としての誇りとか、プライドを持って戦えるのはいいことですね。僕も海外に出て、日本代表というのは凄いいことだ、あらためて思いましたから(笑)！

最後に、今回のW杯で、ジャパンが予選プールを突破するポイントをお願します。

村田 カギは15人の意識統一。ひとりでも勝てないと思う選手がいると勝てないんですよ。勝利を遂行できる思いがあるかどうかですよ。ラグビーというのは実力がそのまま出ますから、番狂わせがないので、日本らしさをどう出していかを考えると、海外から帰ってきた選手がいい刺激を与えてくれるといいですよ。僕が日本に戻ってきたのは、そういう思いで、今回も日本代表として、W杯で戦いたいからなんですよ！



身体だけでなく、頭脳の回転や判断のスピードを上げて、プレイした村田選手。ここに海外日本人選手の活躍がある！